

R-18



異世界

因

習

オネ
タヨ村

ぼくはコタロウ

幼い頃

この場所に
引っ越してきて以来

家族の手伝いを
しながら
暮らしている

ここ数日は
こんな感じで
ずっと寝不足…

原因は絶対
最近見るようになった
あの夢のせいだ—

あら、お母様に
ついていなくて
いいの？



かわいい子ね…♡

いつものように
夢に出てくるのは
前に住んでいた村と
あるおねえさん…

この箱、
あなたに
預けておくわ…

この日みたいに
幼い頃の記憶を
辿るときもあれば

大切に
持っていてね

またいつでも
帰っておいで…♡

コタロウ!!
もう行きましょう



…いつも誰なのか
思い出せないまま
目が覚めるけど

なんだかとても
懐かしい
気持ちになるんだ…



おねえさんが
今のぼくに話しかけて
くるだけのときもある



とっても楽しみ♡



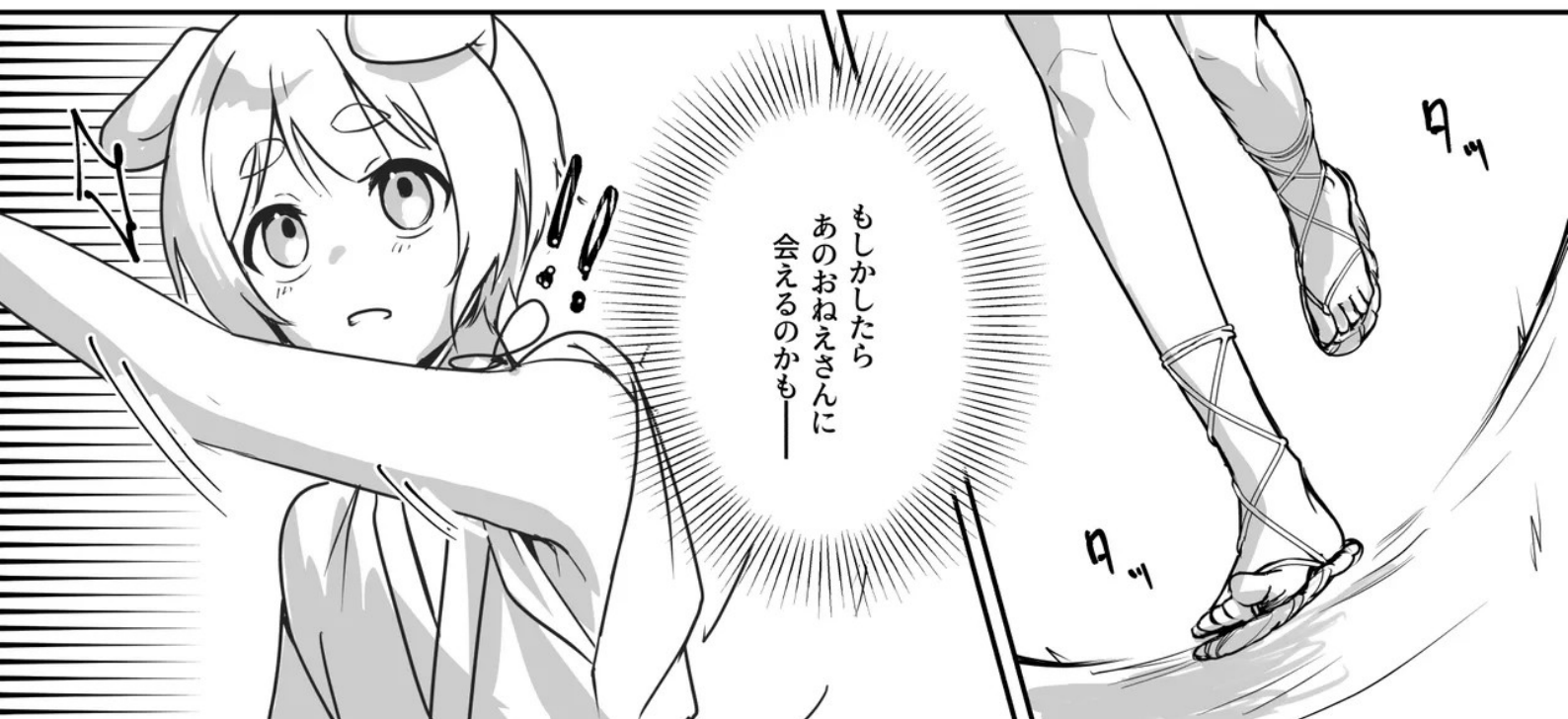
今夜こそ
ちゃんと
眠れますように…!!



…しかも
あのおねえさん
いつも最後は
ぼくに迫ってきて…
どきどきして……

うっ…
思い出したら
恥ずかしく
なってきた……







おねえさんの
膝枕の心地よさに
すぐにうとうと
してしまった—



ここ数日の
寝不足のおかげで
限界を迎えていた
ぼくは

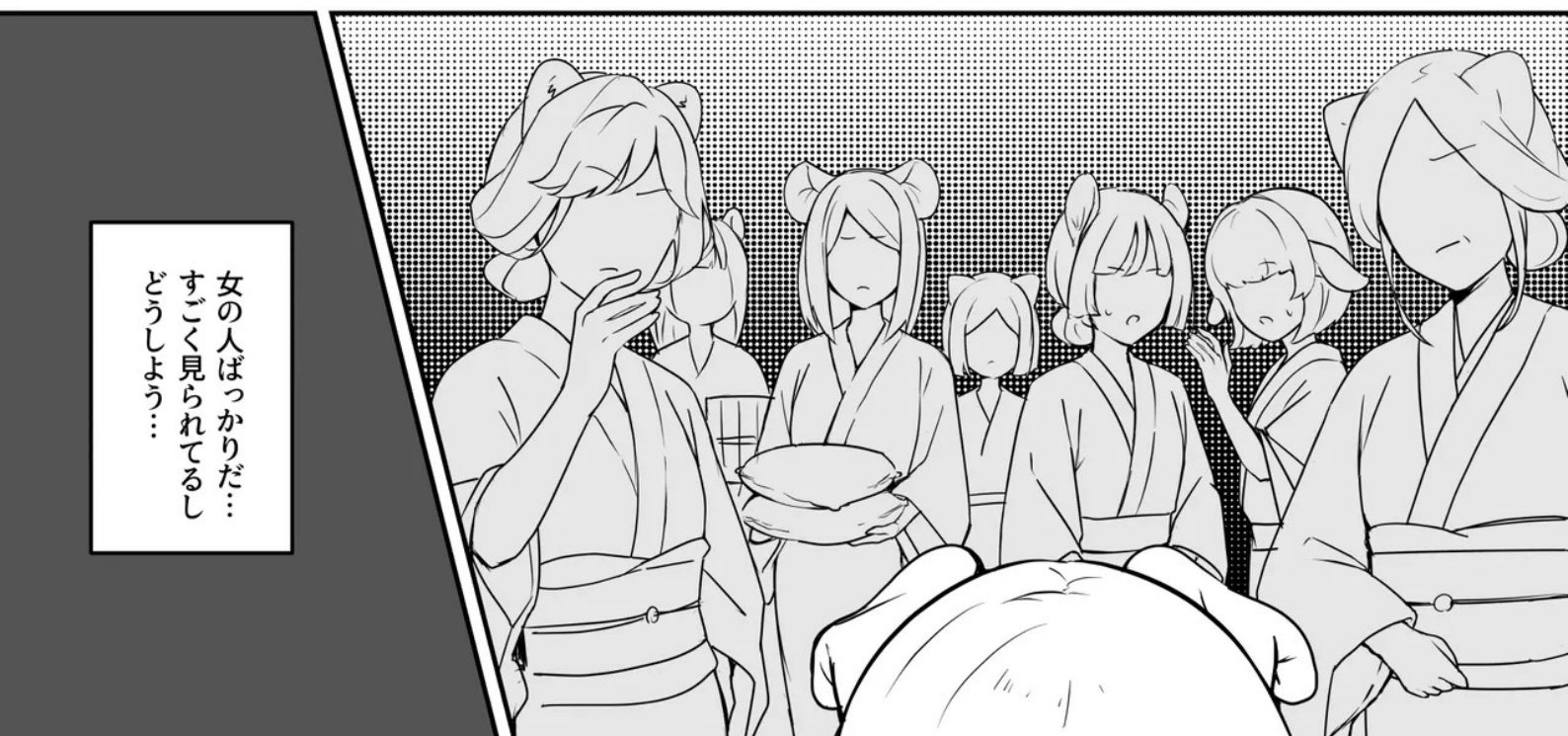


おねえさんも
いない…

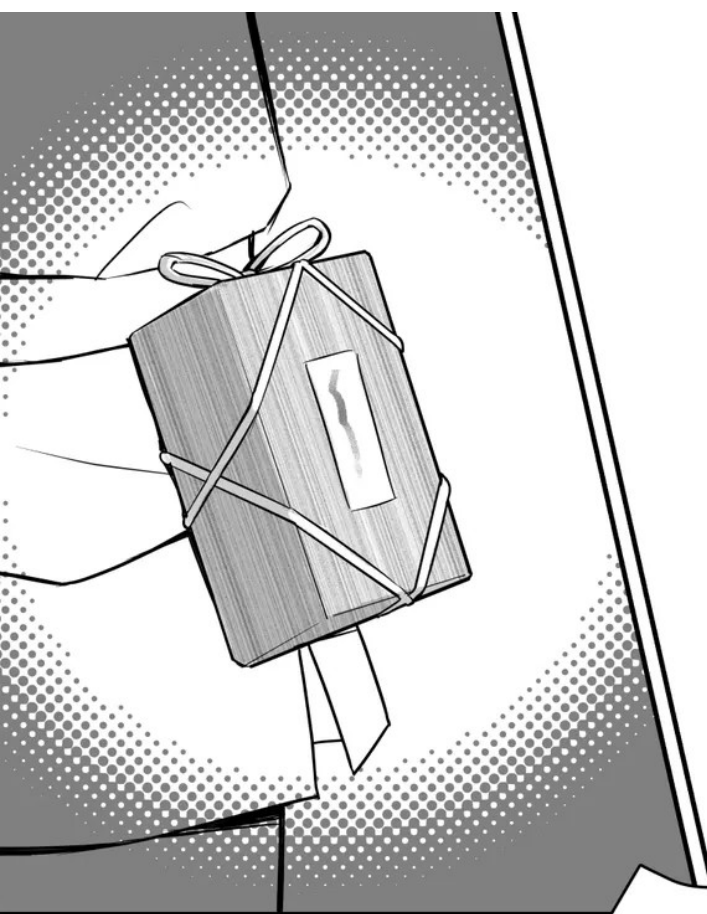


あれ…
いつのまに
寝ちゃってたんだ…

ここは
どこだろう…?



女の子ばかりだ…
すぐく見られてるし
どうしよう…



あ、あの…



ギャ

姫巫女様の
番が現れたわ!!

ギャ

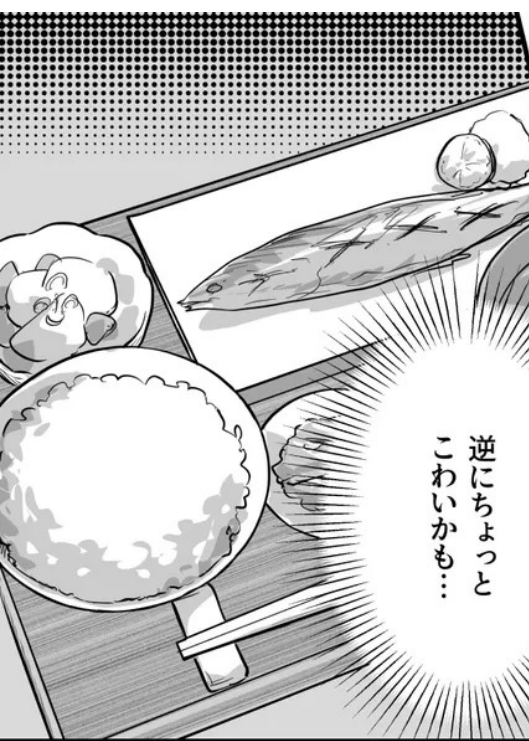


ぎ、儀式…?!



皆!!
早く村の者を
集めて!!

儀式の準備を
しましょう!!



逆にちょっと
こわいかも…



お食事の準備が
整いましたよ

思いの外
すごく歓迎
されている…



ごちそう
さまでした



まあいっか…
ご飯おいしいし…

うま、

気づけば僕は
すっかりご馳走を
平らげていた



さっきから何度も
儀式…って
これから僕…
どうなっちゃうんだろう

浴室まで
ご案内いたしますよ



儀式の前に
身を清めて
いただきます



お召し物は
お預かりしますね

わっ！

こちらで
お身体を
清めていただきます

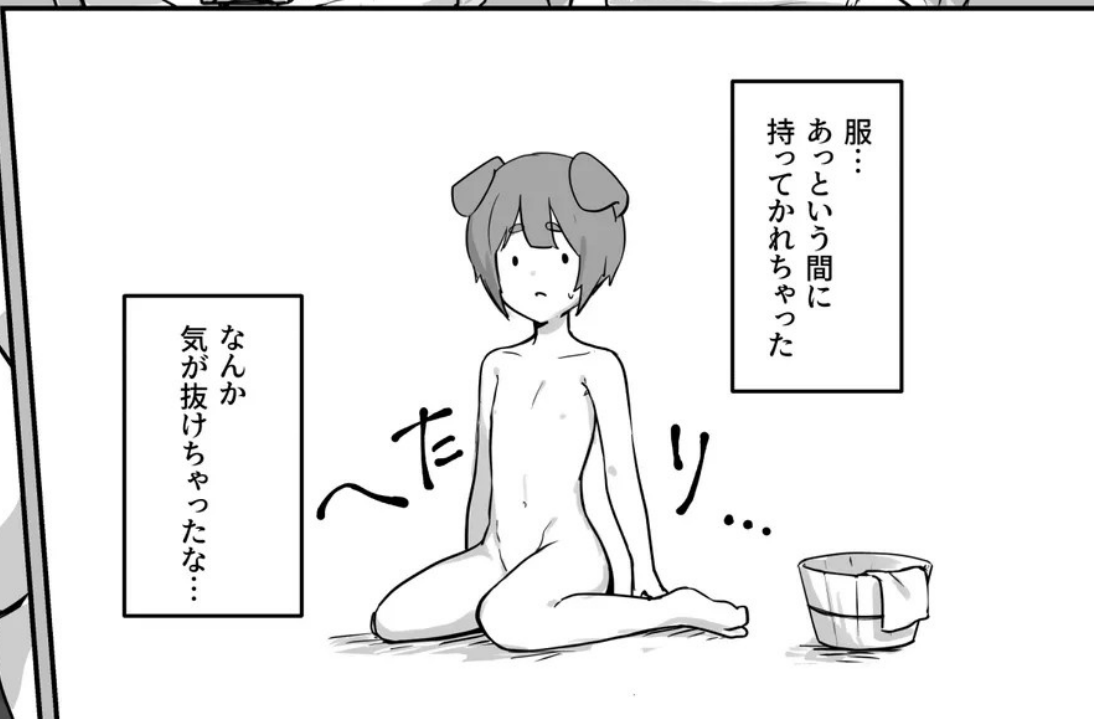
それくらい
自分で
出来るのにつ...



—ここからは
私が担当いたしますね♡



それでは
失礼いたします



服...
あつという間に
持ってかれちゃった

なんか
気が抜けちゃったな...

へたり...



やっとゆっくり
お話しできるわね
コタロウさん♡

なんで…ぼくの名前…
やっぱり夢で見た
おねえさん…なの？



あなたのカラダが
成熟しきる前に
番になってほしくて
うずうずしてたの♡

ふふ…そうよ
何度も
夢にお邪魔して
ごめんなさいね

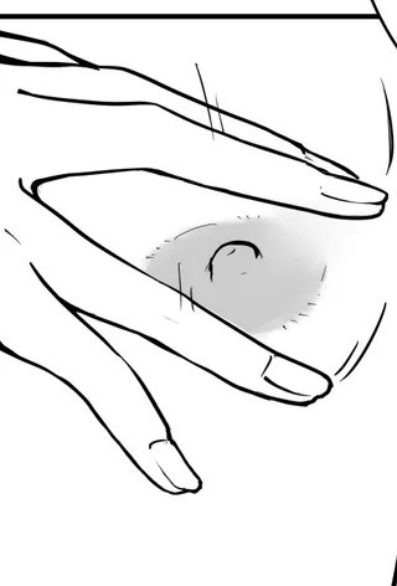
今すぐにでも
契りを交わしたいけれど
外で村の者達も
儀式を待ってくれている
みたいだし…



まずは
カラダを綺麗に
しましょう…♡



洗い残しがあると
いけないから
おねえさんが
手伝ってあげる♡



うふふ♡
コタロウさん
のお肌、すべすべで
柔らかい…♡



体を洗っている
だけなのに
ずいぶん反応が
いいですね…♡



カラダは大きく
なったようだけど
こっちはまだまだ
かわいい...♡

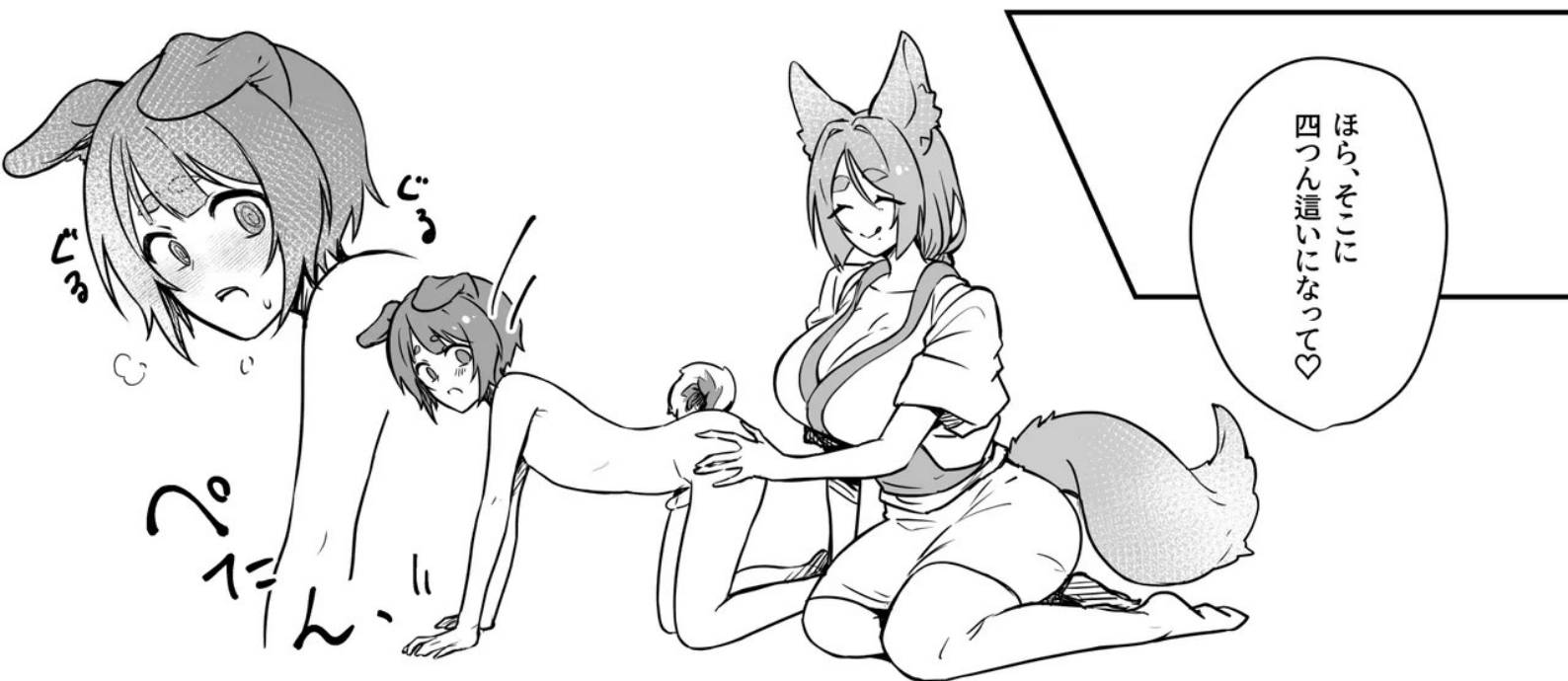
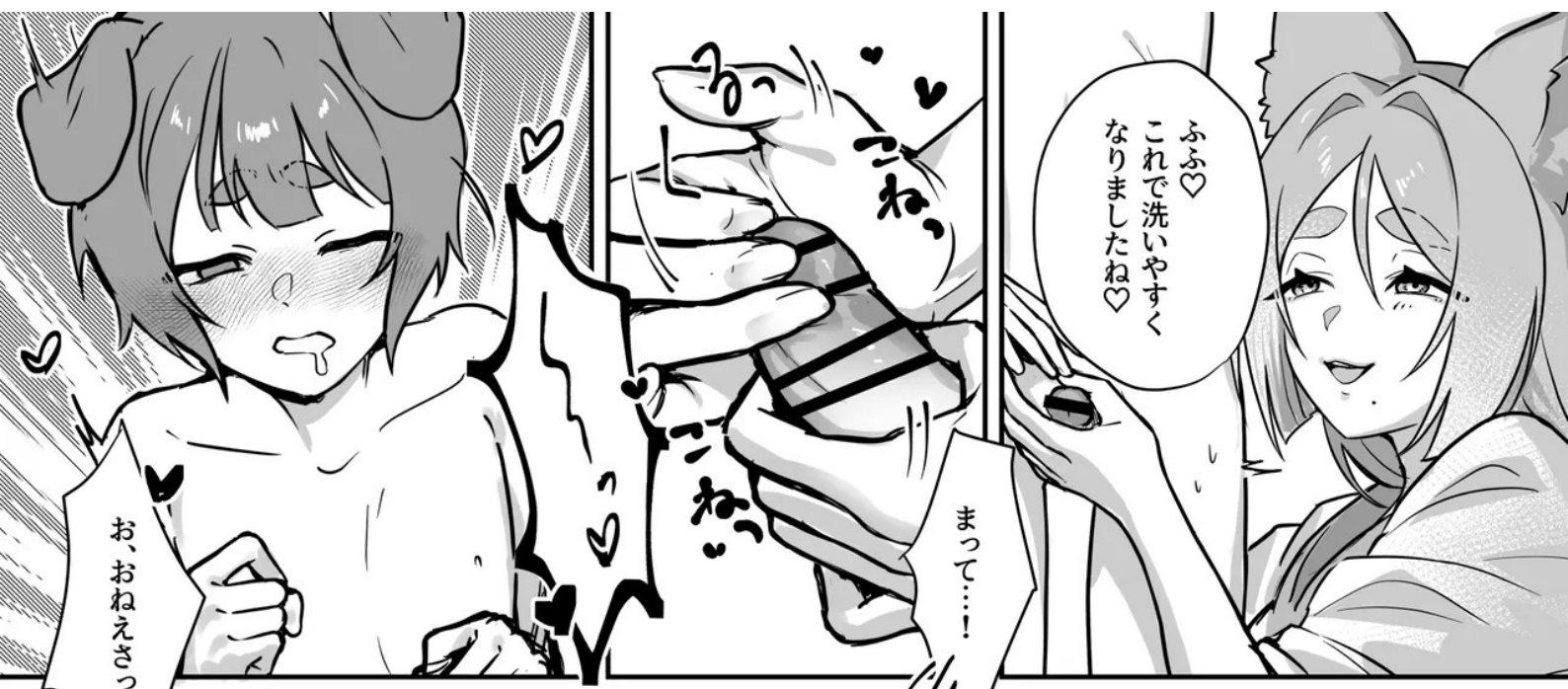
ここは
皮を被っているから
特に丁寧に洗わないと
いけませんね...♡

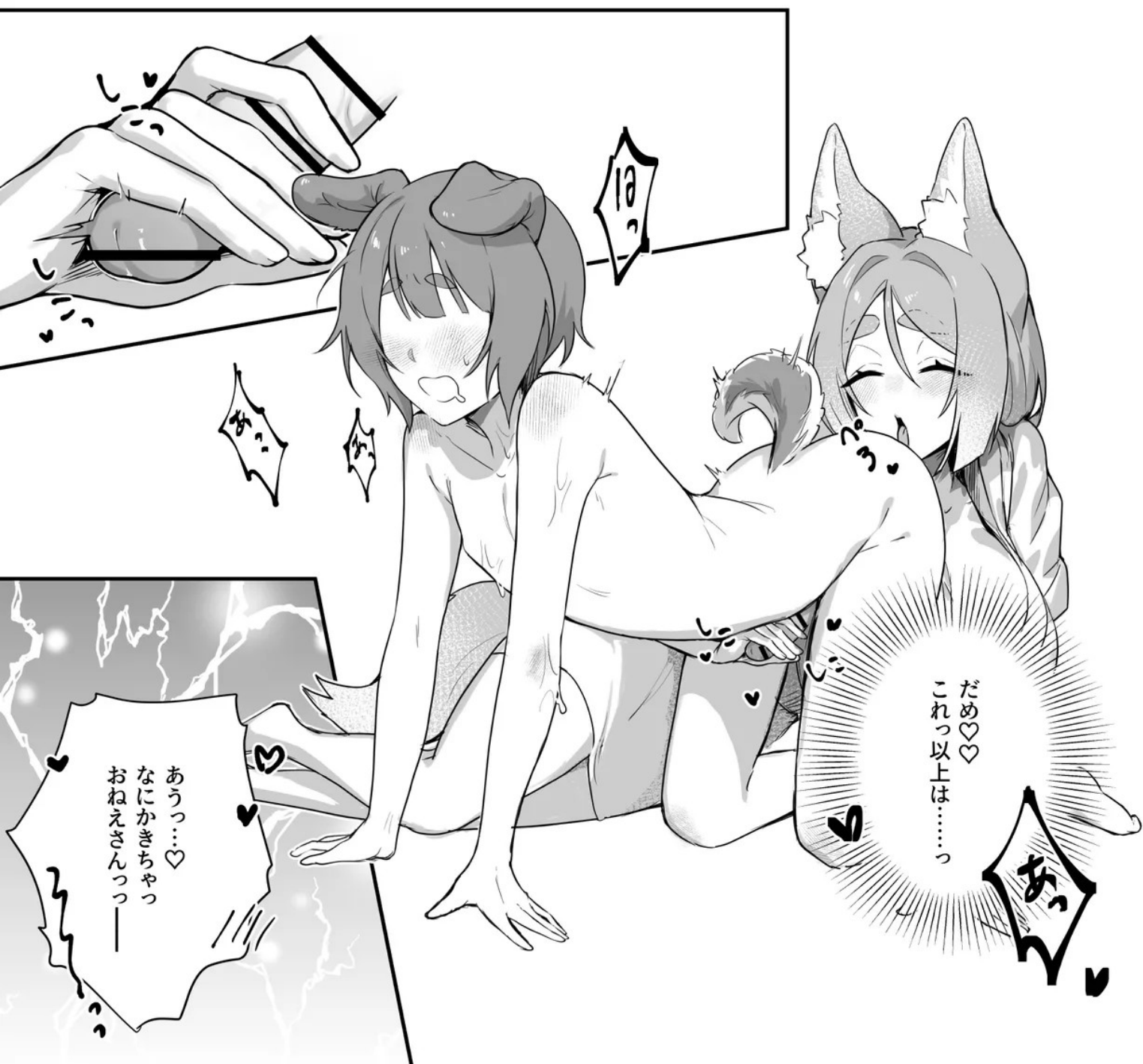
さす

ま、ま、ま

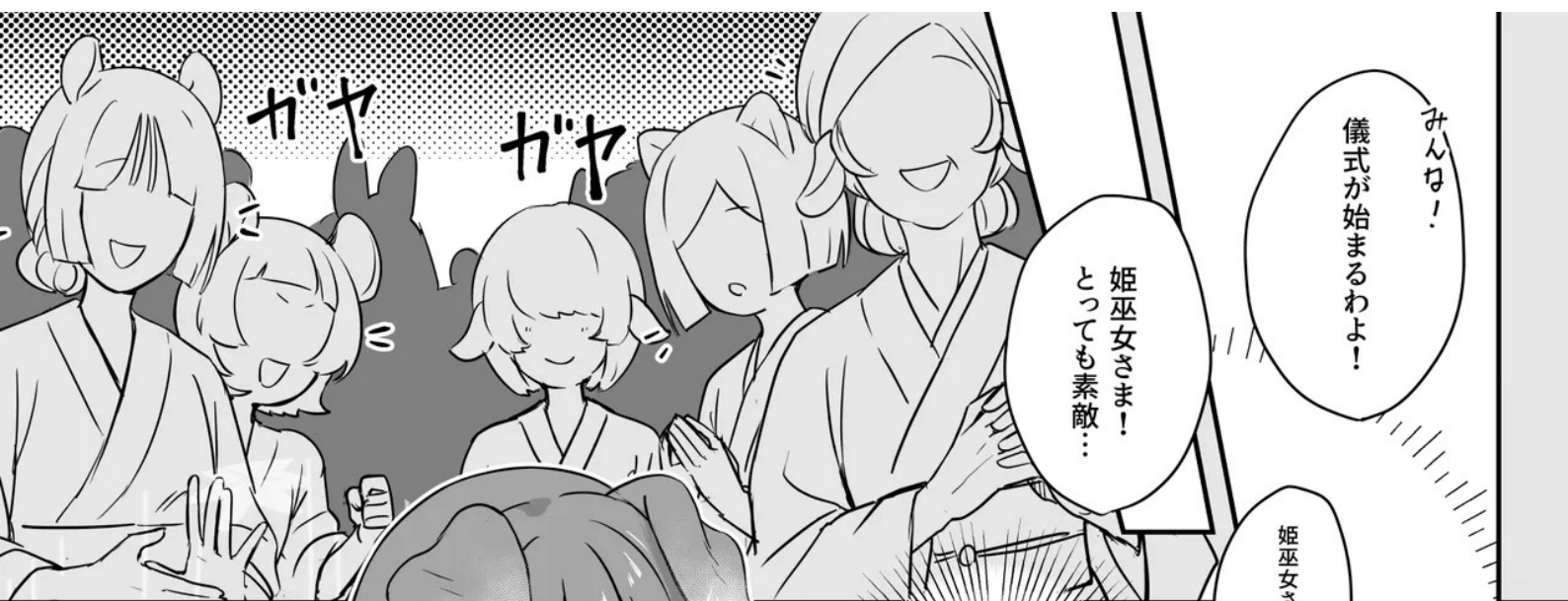
おねえさっつー

剥
き
方









みんな！
儀式が始まるわよ！

姫巫女さま！
とっても素敵…

姫巫女さま…！！



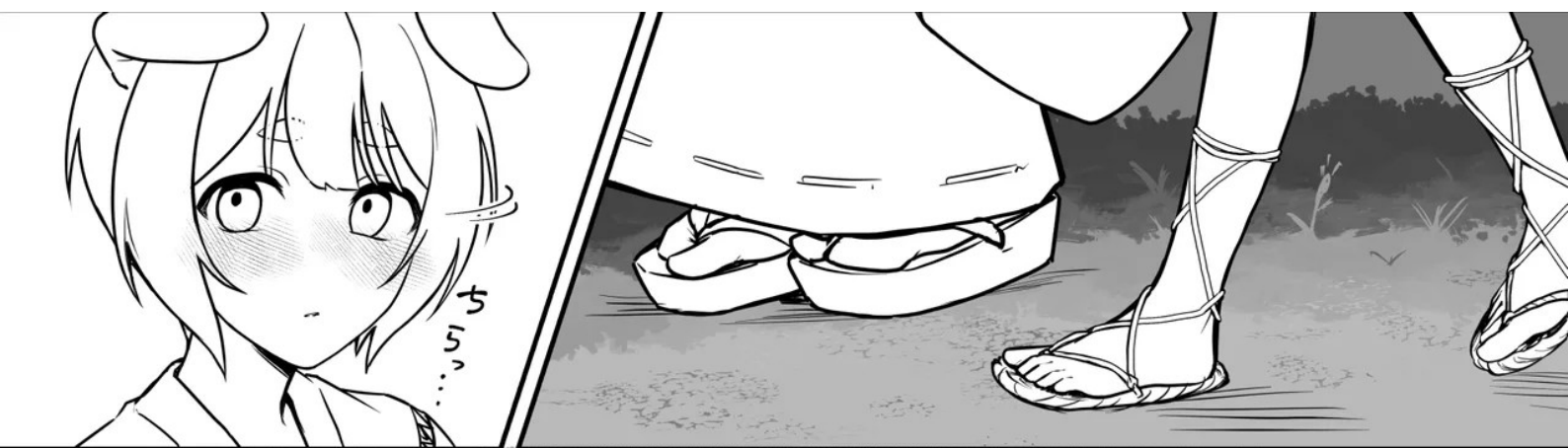
さっき
あんなことが
あったのに…

こんな状態で
みんなの前に立つ
ことになるなんて…



あら、コタロウさん
緊張してるの？

ふふ…
儀式と言っても
コタロウさんは
私についてくるだけで
大丈夫ですからね♡



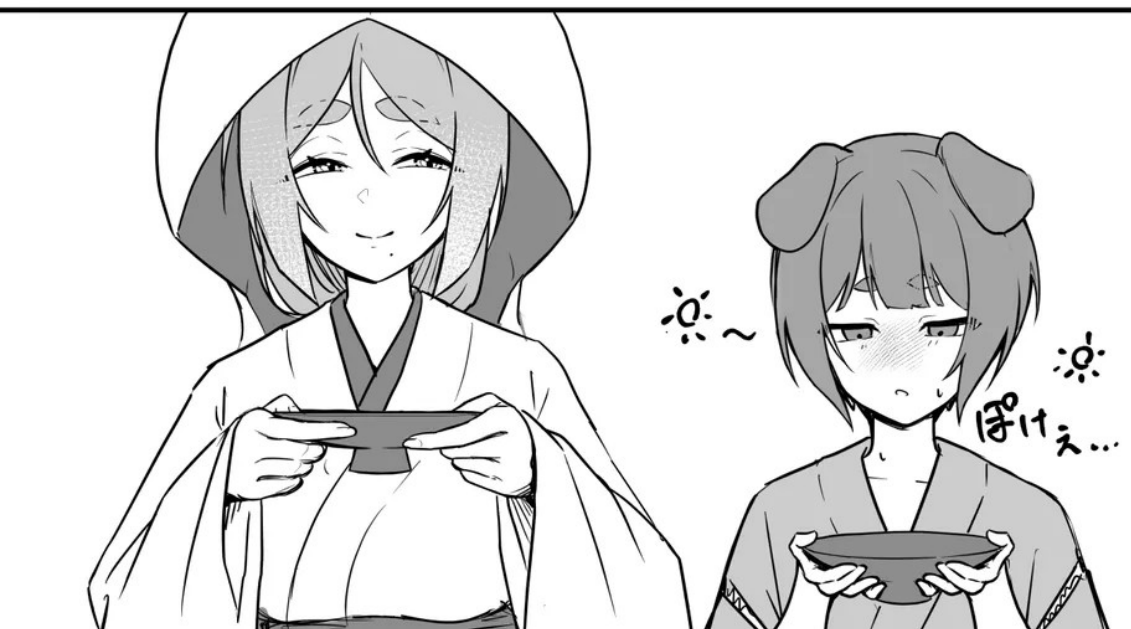
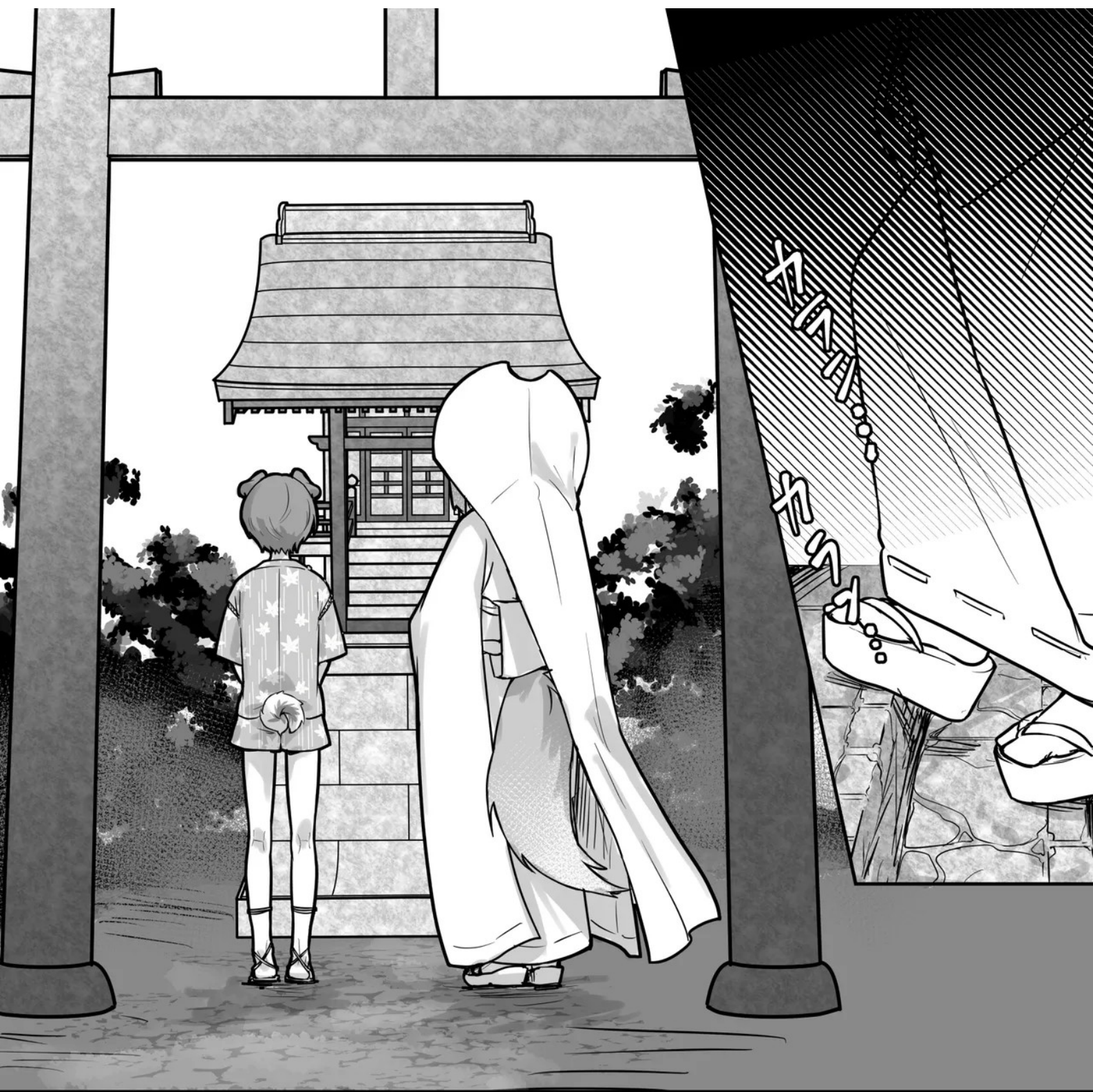
ち
うっ……

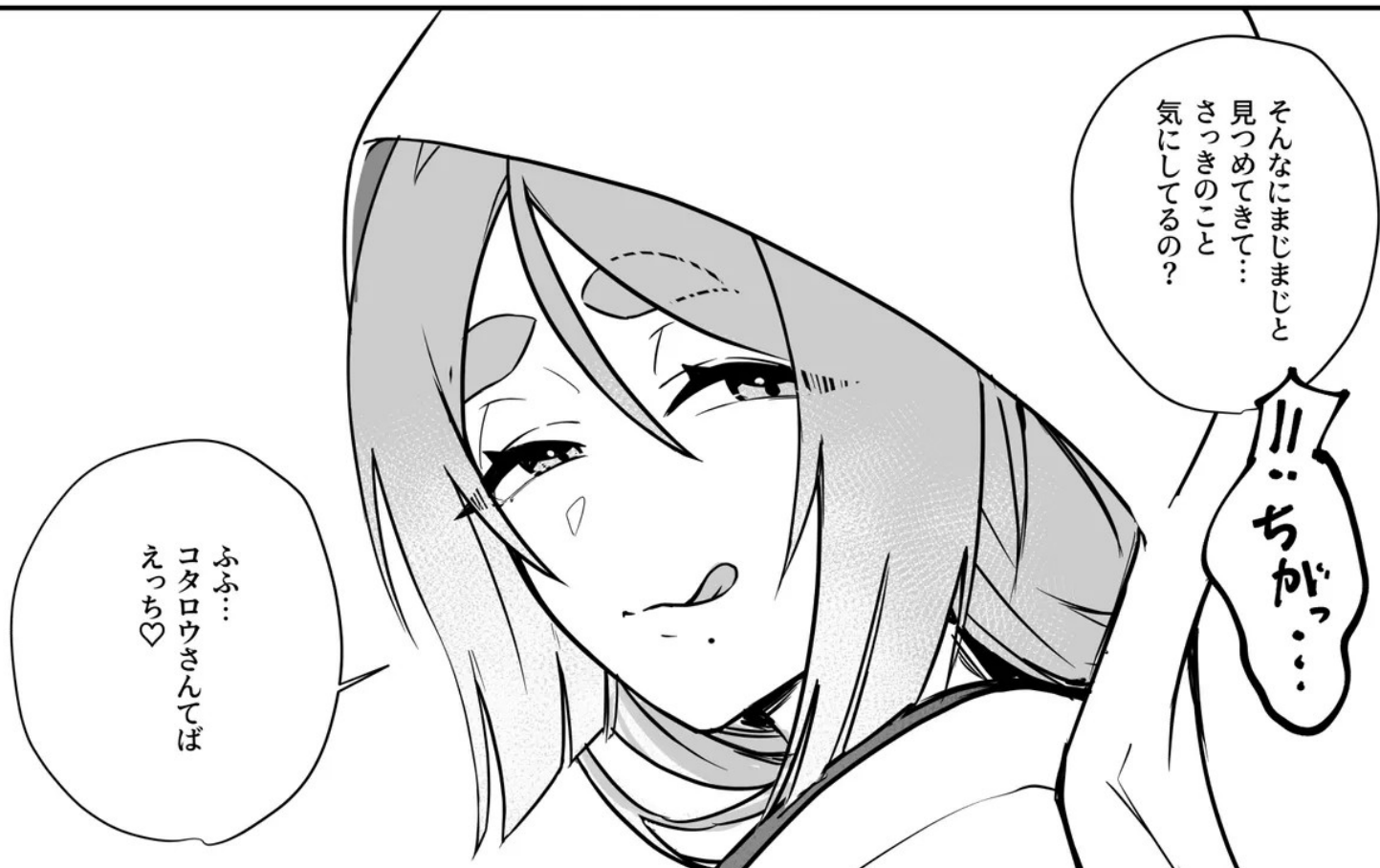


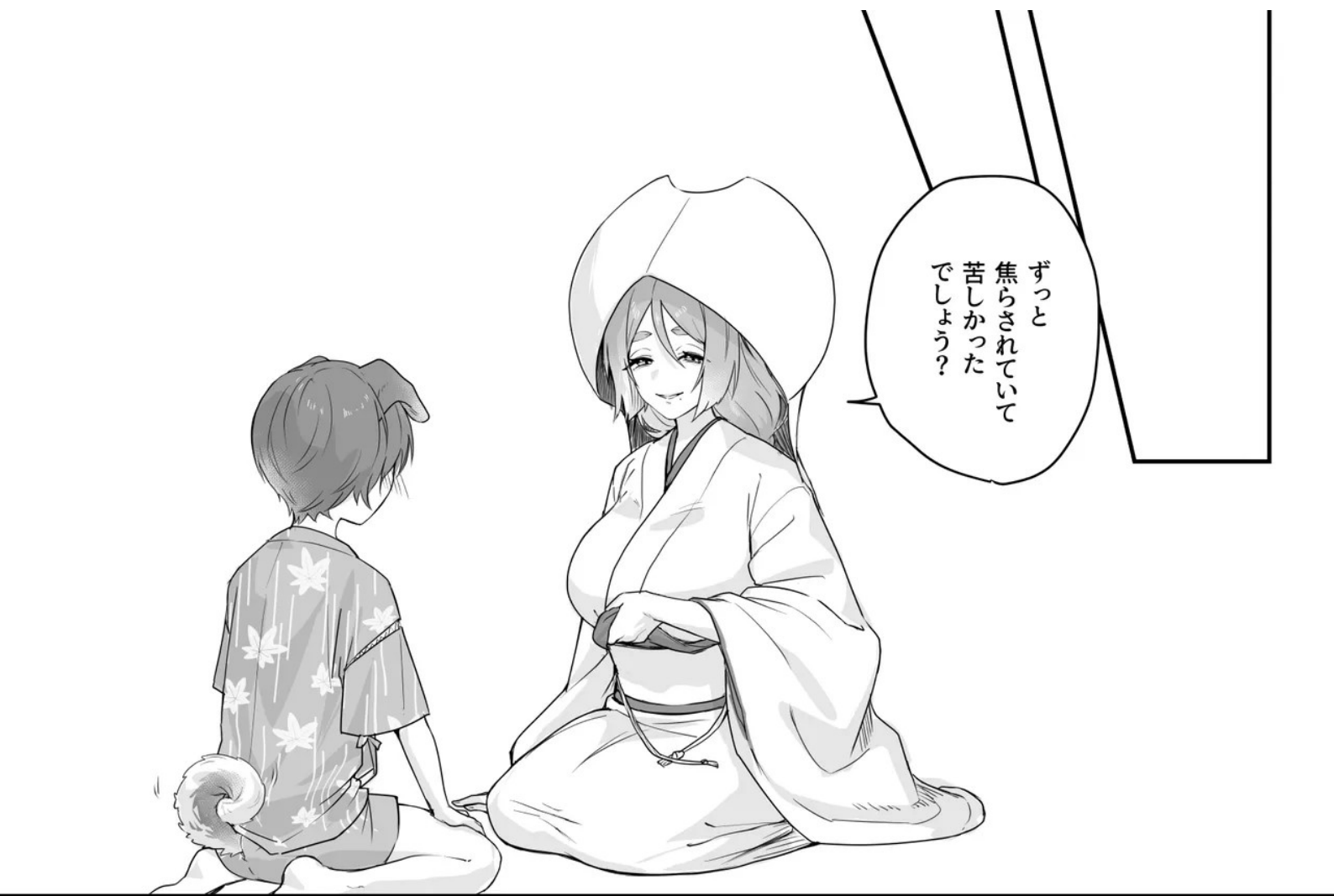
おねえさんに
ついていけば
良いって言われたけど

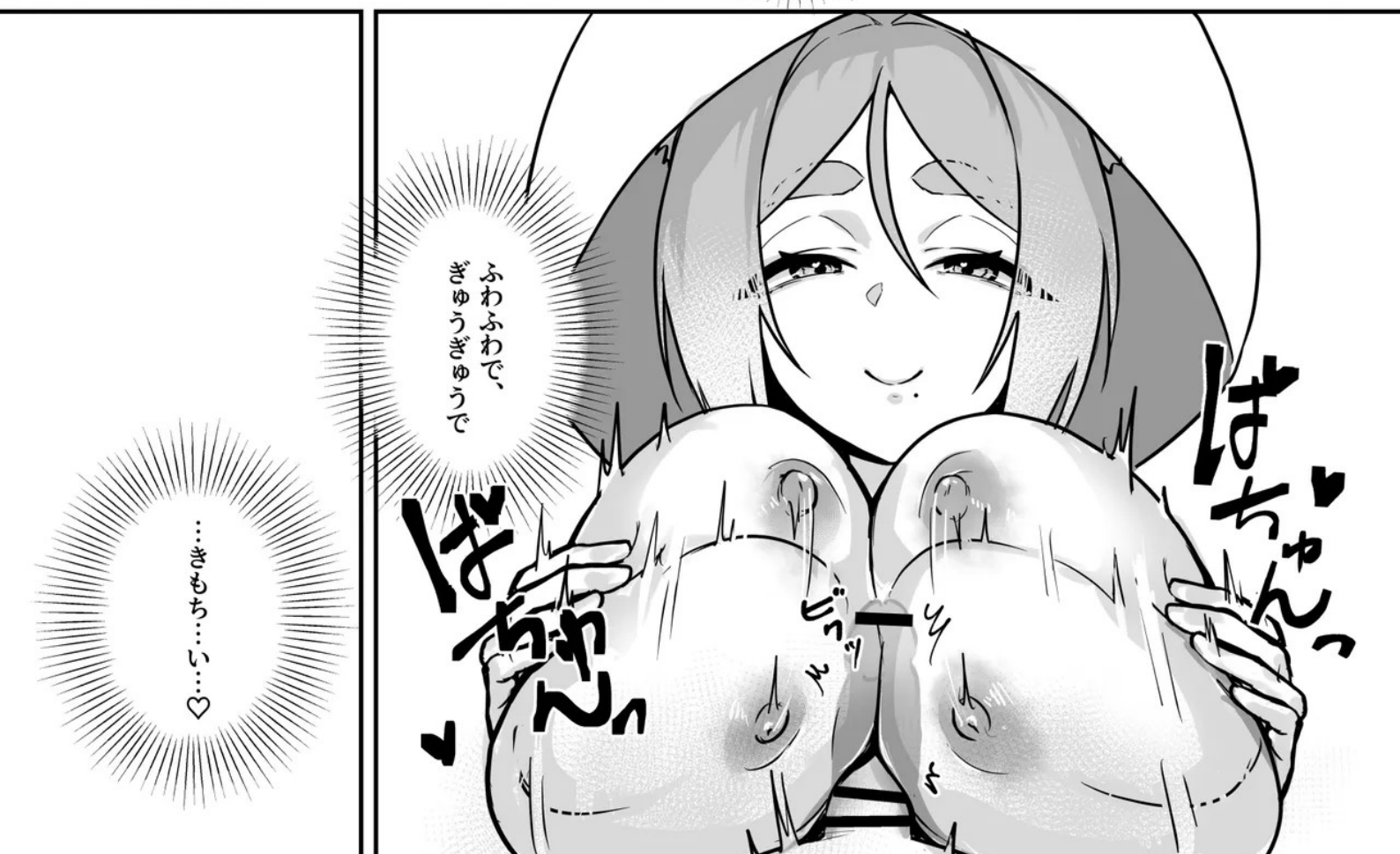
じゃあ……

どこまで
歩くんだろう……















ふふ...♡
コタロウさんのおちんぽ
とっても美味しそう...

ま、待って
おねえさつ—

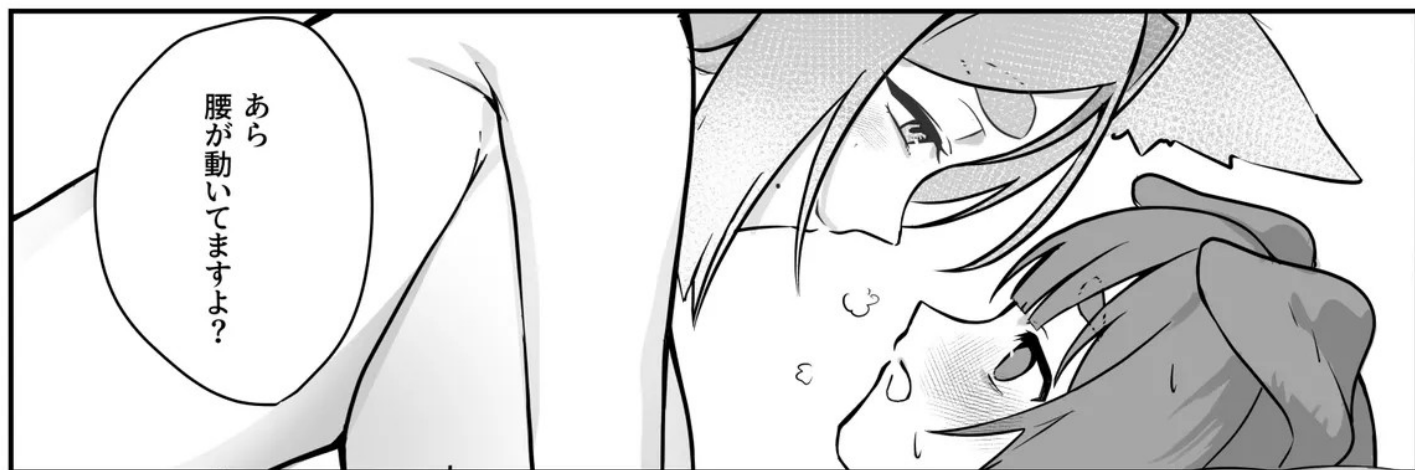


んふ♡
どうしたの?
コタロウさん♡♡

んむっ...!

もしかして私、
怖がらせちゃった?







ほら……♡
奥まで挿入しましたよ♡

はぁ、

腰っ♡
動いちゃうっ♡♡

ふふっ♡
おねえさんも
もう我慢できないっ

おねえさんっ♡
待ってっ♡

あー♡♡♡

あー♡♡

あー♡♡



…ッだめ
おねえさん

何か出ちゃう…
感覚するっ♡♡

で、
でちゃうっ♡
からっ…♡

ふふ♡
いいんですよ♡♡

たくさん
出してねっ♡♡♡
コタロウさんっ♡

あうっ…
おねえさっ…
でりゅっ♡♡♡♡♡

ぽんっ

ぽんっ

びゅるるるるるる

るるるるるる





これでようやく……
今日から私たちは
番ですね♡

つつがい……？

そう♡

これからも
おねえさんと
毎日こうして
暮らすんですよ♡

まいにち……
おねえさんと……？



今日から
よろしくお願
い
しますね

とても大事な話
みたいけど……

旦那さま♡

頭がぼうつとして
何もわからないや……

ずっと
おねえさんと
一緒にいられるなら
なんでもいい……♡♡

は……はひ……♡

知ってる？
この村で
毎年やってる
儀式はね

姫巫女さまの
嫁入りを
祝っているんだって

知ってる！

大昔に姫巫女さまが
村に降りてきて
番を探して
いたんでしょ？

見てみたかったなあ……



異世界因習オネシヨタ村

著 者 ねこんけ

発行日:2026年4月17日
発 行:ねちょすけ。
連絡先:X @nechosuke9999



※本誌は成年向けです。18歳未満の閲覧・購入は禁止です。
※本書の内容はすべてフィクションであり、実在の人物や
団体とは一切関係ありません。
※本書の無断転載・複写・複製・再頒布・転売を固く禁じます。
